

新居浜の小・中学生が近代化産業遺産を

学ぶ教材とその環境をつくることを提案します

現状と課題

別子銅山の産業遺産は身近にあり、普段の生活や風景の中に溶け込んでしまっているために気づき難い。そのため世界的な産業遺産と言われるその価値を知り学ぶ機会が少ない。

小・中学生を対象とした教材が少ない。

体験的な学習を継続的に行う機会が無い。

理由と根拠

小学生との体験学習を通して見えてきたものとは…

2007年6月9日～6月10日に市内10校の小学校から98名の児童が参加して、一泊二日の日程で別子銅山の登山による体験学習を実施したときの感想より多くのことが見えてきた。

- ・ 別子銅山の歴史や山の自然を直接体験することで、そのすばらしさを実感できた。
- ・ 登山のマナー、ゴミ拾いや自然を大切にすることが養われた。
- ・ しんどいし疲れるが、そのことを通して頑張ることの大切さを学んだ。
- ・ 違う小学校の友だちと新しい出逢いがあり、仲間作りの楽しさを発見した。
- ・ 山登りやカレー作り、宿泊などを通して仲間と協力する大切さを知った。
- ・ 家族から離れることで、より家族の大切さを感じることができた。
- ・ ワークショップ終了後、持ち帰った資料等を通じた家族とのコミュニケーションにより、家族の絆が深まった。
- ・ 学習したことを他者へ伝えることにより、「知」の広がりを見せた。
- ・ 小学生と高校生との年代を超えた交流により相互の信頼関係も構築できた。
- ・ 6年生からは、中学校での実施も希望していた。
- ・ 保護者からは、普段なかなか機会を作ることができないことから、今後も続けてほしいとの期待の声をいただいた。

提 案

1 別子銅山に関する体験学習の定期的、継続的な実施環境を整えよう！



高校生が中心となって、より若い世代に伝えていく活動を行うための環境整備（人材、資金面など）を整備する。
また、若い世代から大人へ向けての学習会も行う。

【本年度実施の小・中学生との学習会】

市内小学校 98名の児童 2007.6.9～6.10

角野小学校児童 30名 2007.7.25

別子中学校生徒 2名 2007.10.6

2 定期的な学習会を開催して学びの輪を広げよう！

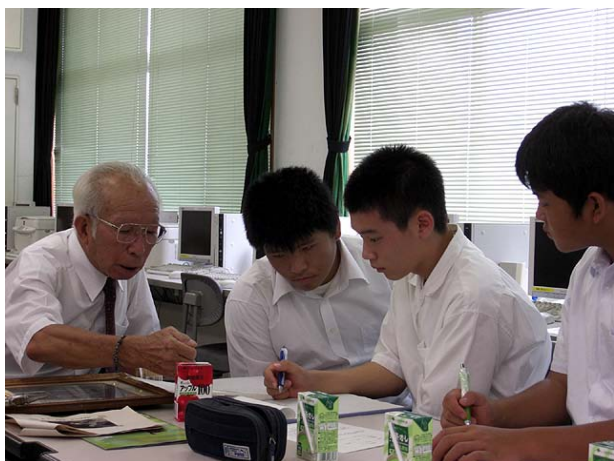


別子銅山の体験者、観光ボランティアガイド関係者、あるいは別子銅山に関心を持つ人々が定期的集い、学習会（講義や現地研修など）を行う。

場を設けることで、大人と子どもが机を並べ、集中的に内容の濃い学習が行えること、またそこから新しい発見や人との交流や人脈が生まれ、学びの輪を広げるきっかけとなる。

惣開公民館市民学習会 2007.8.21

3 別子銅山を学習するための教材の開発



- ・「別子銅山 産業遺産 八十八か所 ふれあい めぐりあい ガイドブック」の充実および改善
- ・鉱山体験者の体験談を収録したホームページ「語り部アーカイブ」の制作
- ・さまざまなメディアに対応した教材の開発（紙、パソコン・携帯電話などの電子メディア）

鉱山体験者の聞き取り調査

2007. 8. 2、8. 29、8. 31、9. 9、9. 15、9. 29

4 同じ産業遺産を持つ他地域との交流による広がりをつくろう！



まずは、高校生が中心となり、同じ産業遺産を持つ他の地域へ出かけ学習することで、改めて自分の地域を知る機会となる。

さらに他地域との交流を図り、相互の連携を築くことで、相乗効果も期待でき、今後の活動の深まりや広がりを持たせるきっかけが生まれる。

石見銀山学習活動 2007. 12. 26～12. 27

●別子銅山学習の紹介ホームページアドレス●

<http://www.niihamaminami-h.ed.jp/akagane/>